

### 3 スターチス・シヌアータ品種比較試験

#### 背景と目的

スターチス・シヌアータは仏花として需要が安定しており、市内の花き品目の中で販売額が常に上位の主要な品目です。近年紫系品種の収量、品質面は大きく向上している一方で、生産現場ではピンク系品種の選定に苦慮していることから、基幹品種である「オーキッドピンク」と近年育成されたピンク系品種、系統で品種比較を行いました。

関係先 旭川青果物生産出荷協議会花卉部会

#### 耕種概要

供試品種 オーキッドピンク（標準品種）ほか全7品種（下表の通り）  
 作型 5月植え無加温8月～10月切り（ビニールハウス栽培）  
 定植日 5月15日 収穫終 10月31日

#### 供試品種と試験結果

品種名	採花時期	採花総本数 (本/株)		規格内本数 (本/株)		規格内率 (%)		規格内の平均値		
		時期別	合計	時期別	合計	時期別	全期間	切花長 (cm)	分枝数 (本)	ブラシ数 (個)
①オーキッド ピンク（標準）	一番花	14.6	32.1	12.8	18.0	87	56	77	4.3	9.0
	二番花	17.5		5.3		30		61	4.0	7.8
②ピンク スター	一番花	10.8	35.9	6.1	13.6	57	38	79	5.8	17.1
	二番花	25.1		7.5		30		58	4.4	8.8
③アイレン ピンク	一番花	15.9	48.3	9.1	15.1	57	31	62	3.3	5.3
	二番花	32.4		6.0		19		56	3.1	4.7
④P1732S	一番花	19.9	53.3	14.6	18.5	74	35	69	3.2	4.9
	二番花	33.4		3.9		12		57	3.1	4.4
⑤P1734S	一番花	22.5	57.0	17.0	31.4	76	55	75	3.6	6.1
	二番花	34.5		14.4		42		66	3.2	4.6
⑥P1736S	一番花	15.8	46.1	12.5	23.4	79	51	74	3.7	5.9
	二番花	30.4		10.9		36		62	3.2	4.9
⑦17PN	一番花	14.1	43.5	9.1	19.0	65	43	69	4.5	8.2
	二番花	29.4		9.9		34		59	3.5	5.3

販売元：①・②：TSメリクロン，③～⑥：カネコ種苗，⑦：ミヨシ

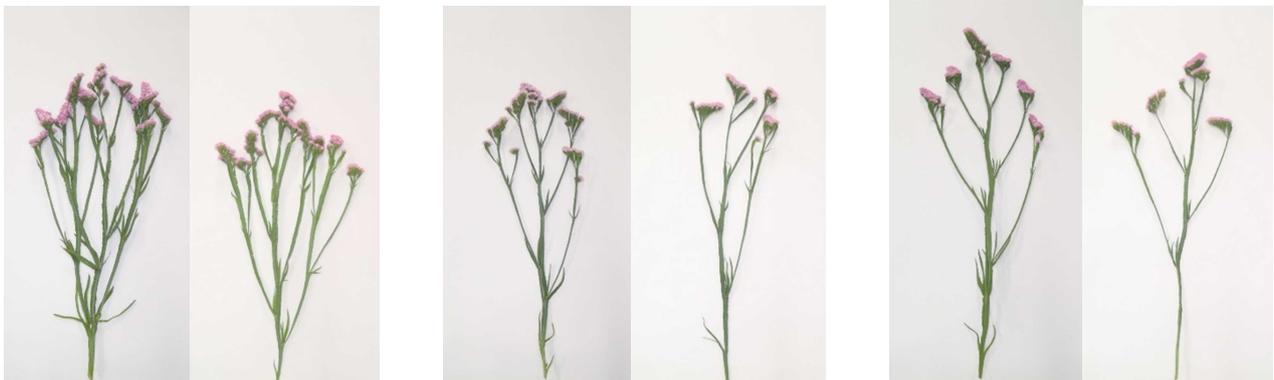
全採花期間で見ると、採花総本数は標準品種が最も少なく、P1734Sが最も多くなりました。規格内本数もP1734Sが最も多くなりました。

標準品種は一番花の収量、品質は良好ですが、二番花の収量、品質が低下することが課題であり、本試験でも二番花の収量性が低くなりました。二番花で収量性が良かった品種はP1734S、P1736Sで、特に前者の規格内本数は標準品種の2.7倍でした。

ただし、一番花、二番花ともに切花長は良好でしたが、分枝数、ブラシ数は少なく、ボリューム感に欠けました。

**標準品種と、同等と評価できた品種**

品種	特性
オーキッド ピンク (標準)	<p>&lt;一番花は良いが二番花が課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一番花は、収量性や品質面において見劣りする点はなく、規格内率の高さや草姿の良さなどが優れていた。</li> <li>・二番花は採花総本数が少なくなるほか、切花長が極端に短くなり規格外になるものが多いため収量性に乏しかった。</li> </ul>
P1734S	<p>&lt;草姿は劣るが収量性が際立つ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・採花期間を通じて収量性が非常に高かった。規格内本数は標準品種の1.7倍だった。標準品種は二番花で収量性が落ちるが、本品種は落ち込みが少なかった。</li> <li>・二番花の切花長は最も長かった。</li> <li>・分枝数は比較的少なく、草姿は標準品種より劣った。</li> </ul>
P1736S	<p>&lt;P1734S に特性が似ており、収量性は次ぐ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収量性は標準品種より高かった。</li> <li>・分枝数は比較的少なく、草姿は標準品種より劣った。また、二番花は分枝数不足による規格外が多かった。</li> <li>・P1734S に比べブラシが大きい点（データ割愛）は評価できる。</li> </ul>



オーキッドピンク

P1734S

P1736S

図 一番花（左）と二番花（右）の草姿

**まとめ**

標準品種より収量性が優れていると評価された品種はP1734SとP1736Sでした。ただし、分枝数が標準品種より少なく草姿は見劣りするため、本格導入にあたっては市場評価に注意が必要です。なお、分枝数が少なくすっきりとした草姿のため箱入り本数は標準品種より多くなると思われ、出荷本数当たりの輸送費削減につながる可能性も考えられました。

また、本試験では紫系品種の近年育種された品種、系統について全7品種で参考調査を行いました。その結果につきましては担当までお問い合わせください。